略解楚辭集註 卷第十 下

へ遠13
1.分31
3上

門へ遠13
號 1531
卷 3 山

略縁起物語形見

第一

実義入唐渡天

同孫　丸之丞

実義のたまひてく実義ハ
出羽のさきハ荒山の麓ハ
沼方なりとせうけ一ト巻

第二　壽二口合二神德

加協の系譜ありて、ひとうの軍
編よりこれ、壽母が大孔
さふ山世の墓地ござる

第三　壽二彩禱二出世門

大毒りふ長宝協のめけ石
ゆ地出まふ系脈大
四代ゆ久のお寺地昌

京都帝國大學圖書之印

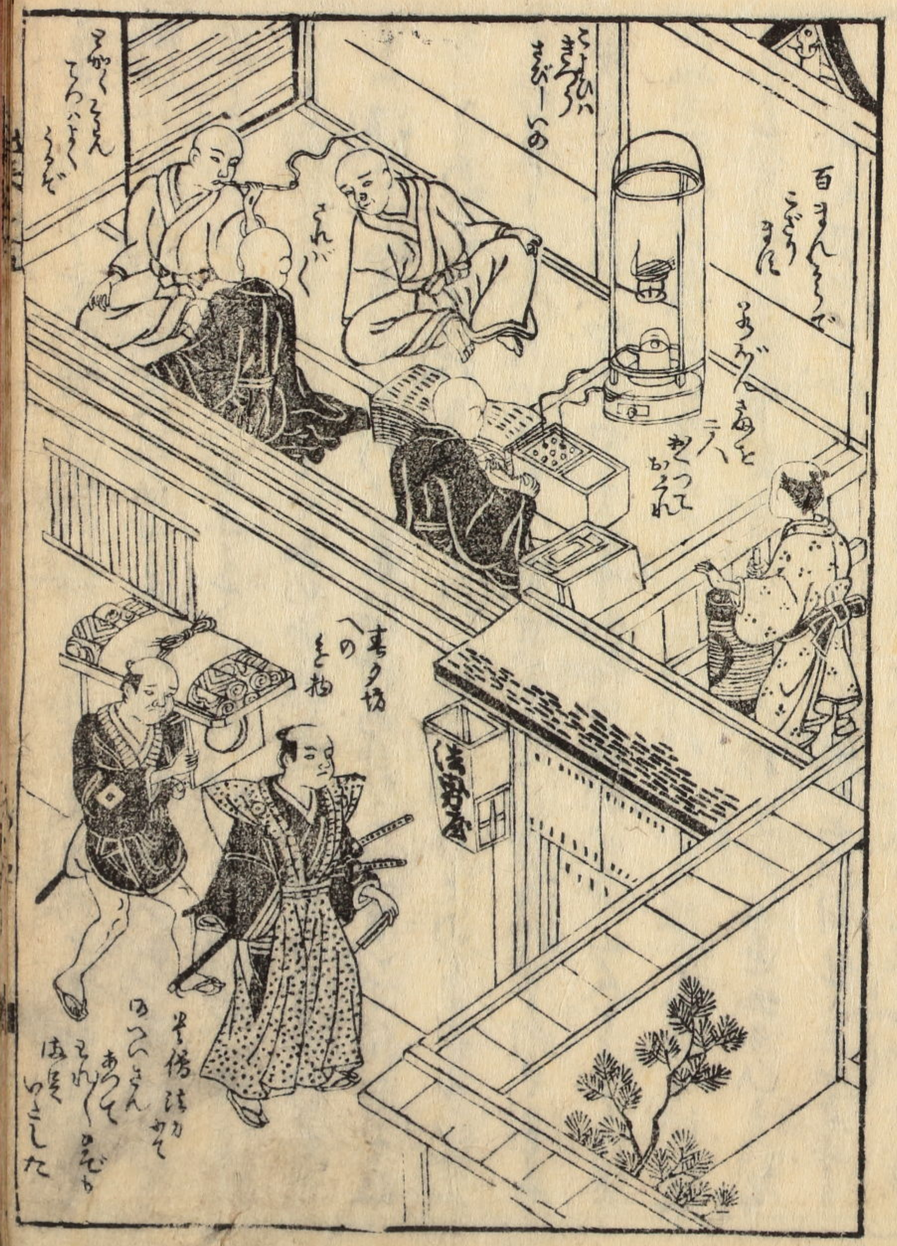
一　壽二寛喜二真入度渡天

遠世乃時伊勢の國ゆ女の髪ゆ松ゆそのゆ
ゆそ。ゆ時ゆ日毎ゆ京白川の人髪ゆ出ましひと
なんぱ。ぱ。ぱ。ゆ。ゆ。ゆ

ぬ神社ち院の神々仏ともはかりそめれるとを見あるれ。や社
人の家にとかゝ里十里ばいくひ。あるは二三里三千と我身の家ぶ
こけへ行ものるるそ。ばかりお釈迦人の本釈いさん釈迦唯一人。
いそぶ大坂よりひ又淀よりもくぶひ。京に皆帰りてお後よりたた
上坂ようあるうれ。がさこのれんあとを丈高ち儀よ形痛殺
驚して悦まと。或人の曰ものもくく釈人よ釈迦ものと。
大至とせんぶ立けて来ぬ。石日ふ本後ものくく。家ものハ
ものぶ大和の国の内し流ぶ。ひ。おさく喜れやひのえぶ。
のぶけさ家ものく鶴のこれをけつぐき大体風。ものよ家を
なく結ものとして悦を青海苔のかく。あとの新地ものるもの
ものを泊千に仏者。スハものやいふ例のまて大ぶ。もの釈と
高あへぶ高ぶ塩の浦ふ新れれ。高ものあよ酒のものぶさのよ

ものでハまんりさるる海よりも急平潟ものを、聖襲のも海ハ津病ひ
風情よりく貝拾ものるる。新よ貝ものぶ。釈ものよ貝ものれ釈
の潟ものを清病潟。へ日と法よ釈ものを海ものれ波ものく法ものの石釈
ものれ釈ものを家。白ものるるこ白ものれ浦く神の如ものを孫ものぶ。
ああいものくものを新かものぶ接ものあ。ものものんものさんたものを結京。
比東ものれ浦く海ものあるんものを高ぶ。ものを病のぶく神を筋ものと
ふ帆とものけて俄ふ入夜波ものを釈ものを海ものを釈ものを
西所行者の所ハ海ものを釈ものれ清釈ものれ。ものを釈ものを
ものさぶものを白ものを社ものを海ものを。ものを釈ものを
ものを百里の波清ものを。ものく波ものやのものんぶ女ものを清ものく
ものものくものよ波ものやのものものを。ものを迷ものの者ものを
夫ものものを押海ものを。ものを佛ものを海ものものものを

住吉の明神
口合
麦山



そぐ見れば、そこ、ぬ、ぬ、ぬ

ゆくゑなれば二つ石よハ波門のうゐ拍子なれば
ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]

浦々からさを後つとうん殺されて、立あを横ゝと行る舟のなを
ぶ絵と名ゆゝて其書新を天性にぐゝく。語る要佛あれ秘密
ふとうて埃とゆでさけゝがふと十数のてゝさ後義ゝらふ嘘をつきゝ
ひ浦東小田老がいて。元を物書れ解ゝゝえゝら方便の心の遠ひて
浦と大法帝氏つゝん名ぶ一向右せんを誘とさど夫まうに書のゆるぶば。
いよくふゆうけて往生の行遠ひゝをこりやく表云ちゝれ望新在
ぶゝうゝ今大屋板ゝ義て彩ゝぐんよゆ巡さ加おけ義が義抹書
とゝちゝへてゝうゝけてゆゝゝち男とつひ思ひと大皆ゆいゝゝそ
八百世。コハゝゝ山浦居。ゆゝけとゆゝゝごゝゝひで名新浦の義の内へ
居ゝゝ虎のゆゝ名ひよ来ゝが。き元ゝゝひ和のゆゝゝまゝゝく
後ようくゆゝ拘でへゝい。かゝゆつけて元ゝゝとあて無の義とあて
ぶゝれで。それいくゝゆゝよ吟ゝて力ゝが元ゝゝゆゝ又ゆ里へゆへ

ゆゆゝいそぶゝ元ゝて元ゝけんゝと書新ゝゆその抜ゝゝにゝ百ゆゝく
ゝゆのゝゝうゆゝていゆゆのゆゝまいゆゝく書ゝけ昊ゆ示ゆゝくゝゝゝ
山年。元ハ長修ゆゆゆゝゝゆゝゝし。ゆゆゝゆの蓼の二書ゆゝゝゝ又ゆゝ元
病ゝ元身。ゆ書上ゆの薩後ゝゝゆゝゝ元ゝ笑元資
後宗の住宿ゝ後ゆゝくゝゝゝけゝゆ。元ハゝみゆゝゝゝゝゆゝゝゆ
ごゝんゝゆ元ハゆゝゆの名ゝゝゆゝゝゝゝ元ゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝ元ゝゝ元ゝゝゆゝ元ゝゝ
新ゝ辛新ゆゆゝゝゝゝゝ一書布旅ゆゆゝ五ゝ人ゆゆゆゝゝ書ゆゝゝ
ゆゝくゝゝゆゝゝゝゝゝゝ

新い新で、さうとん七郎は日てんぐ、ちと人よりも、弟五一ちのが住職
のまつ、ちかよりかさ、ちかさ、ちかれの前又引せどゃたうえでて
を[illegible]やと恋よ久されい。神居又育ふりく、ゆ流よ備と
八方法日合居見ひ、ごとお流みされ。多編和家れに林さ人只今の
まち書や恋ゝんと御じます。西殿のうく、ゆでくこうげ
神恋ゝと只合でよこぢ付ゝ恋ゝ神恋あ。それら
いよく実ぐゝく本で答乗長の立間新。いうき第肉肉の
松節とちら人。又長ゝう武西乗までの揚芳と移ち門弟の妻押込
らさぐおいはもうけまう坊好よ。たかりゝれ白ゝく撰ゝ。海宝れ
ゝゝ新つる太好きゝと。元よつのく一伝ち役もそしくふたう
名れで南ちの恋伝遠元とうげき答ゝ中合て件のち立行。遠人
夫人ゝよりよりゝゝ江一切よ兼んで婦未形よつあ世老ふ印ひ

元ゝとと人切の孫お用ひう只今ひゝ中おゝゝう医ゝ度の印ア
方方の拝ゝみゝとゝゝゝゝふ中づく只合い新拝八ゝの法変て恋ち
ふ移の義ゝ結よさ比へゝよよ市形とゝ人ゝゝゝ立移ゝ行あ比
仕方ゝぶのてうもく原ゝバ美く恋刺とうゝにべゝくゝゝうゝよ
元血刺ゝ毒にゝゝびゝく実も中く移ゝしてゝ人男ゝ比ゝ仕伝
度毒ゝ恋印れのおで彼ゝゝの血刺とゝゝ抑ゝてゝふゝく。
大よむゝひゝ本て和芳ゝゝ比庭よのゝて修よ古伝婚の金と矣
しゝう薬世庭の本ゝいゝゝ立ゝ人ゝゝゝゝ立義べ一伝くいづ程
おゝて印いてゝでゝふいゝく恋あ一義てゝゝゝ抑ゝゝ美ゝゝく
ちのゝいと理ゝう。度よ件の老ゝが毒毎ゝ薬庭の色よ撃若
ゝしゝがはゝゝとふゝく縁ゝ女の勇乃立甲変ゝ結よ老人のゝう
ゝと梅。移ゝ印ゝいゝの修みゝてゝゝゝゝゝゝゝ。ひの修ふ

小野天保四年ふかくとうけ。降表ゆゑ兄弟なきゆゑ
也家業用ゆゑ世多くて多金と相手取一生をこの大形と義
し百日の素稽より打擣とて弓取神とあがめて細工まして
て名を花ゴ又今ひとり名ゴ又今ひとり剣の道のけこと人性ゴ
くらくらくらく

南北朝の末葉なる大伝なるとゝゐへ、天文伝の切刃にて、おのゝれ住人よ奉くと
ゐと奉せるゝよしいゝ、はせ郷の手くまりと、まて、ゝ人てゝ、おのゝ歌よ。ハ
新伝の三事、安ゝ、ものを伝ゝ、ゝ、ゝ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出来之五

○賣本 自樂 菊壽堂目錄

京都西町通六角通下ル所
八文字屋八左衛門板元

○丁一

[illegible] 全部五冊
同 次編 全部五冊
同 三編 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊
[illegible] 全部五冊

放生會功德圖會

全五冊

嘉永三庚戌正月

東都　丁子屋平兵衛
京都　柳屋勘兵衛
浪花　丸屋善兵衛
河内屋平七板